

2023年 2月 6日

アルバイト・パートスタッフのシフト動向調査－業種別－  
シフト管理・給与計算アプリ『シフトボード』活用状況にみる労働実態  
2022年 10-12月時点

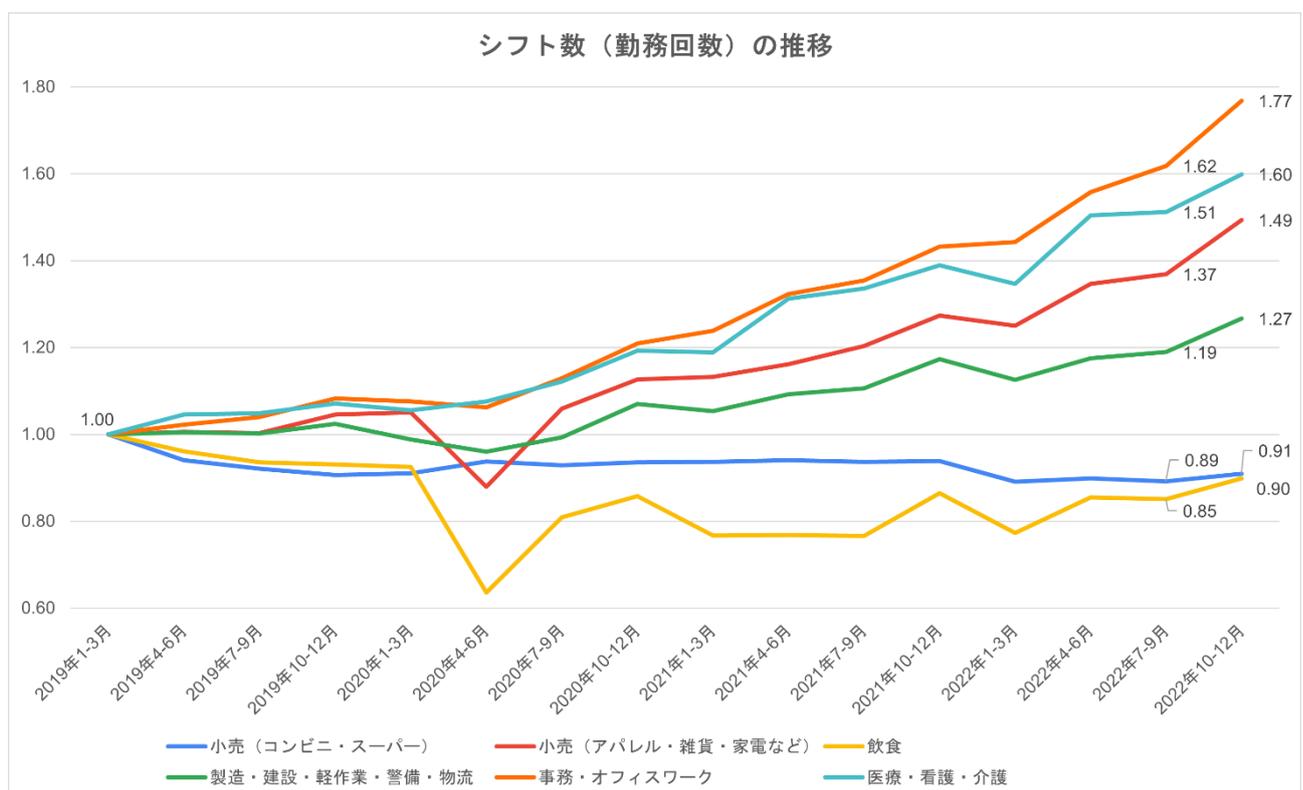
- ◆ シフト数（勤務回数）とシフト人数（スタッフ数）は多くの業種で新型コロナウイルス感染拡大前と比較して増加傾向。一番の伸びは「事務・オフィスワーク」で、年末商戦に向けたコールセンター需要やコロナワクチン接種の受付需要などが下支え
- ◆ 度重なる行動制限の影響を受けて他業種への移動が見られた飲食業のシフト人数は3四半期連続で増加傾向
- ◆ 一人当たりの月間労働時間は6業種全てで2022年7-9月比増加。年末繁忙期の人材需要の高まりの影響が見られる

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘）は、シフト管理・給与計算アプリ『シフトボード』ユーザーの活用状況から、アルバイト・パートスタッフのシフト数（勤務回数）、シフト人数（スタッフ数）、および一人当たりの月間労働時間について調査しました。

「小売（コンビニ・スーパー）」「小売（アパレル・雑貨・家電など）」「飲食」「製造・建設・軽作業・警備・物流」「事務・オフィスワーク」「医療・看護・介護」の6業種における、新型コロナウイルスの感染拡大前の2019年1月から2022年12月までの推移データを発表致します。

また、学生の卒業による一斉退職などでスタッフが入れ替わる3月に向けて、企業の採用・定着成功のためのヒントをジョブズリサーチセンター長の宇佐川 邦子よりご紹介致します。

## 1. シフト数（勤務回数）の推移（指数：2019年1-3月の合計を1.0とする）



2023年2月6日

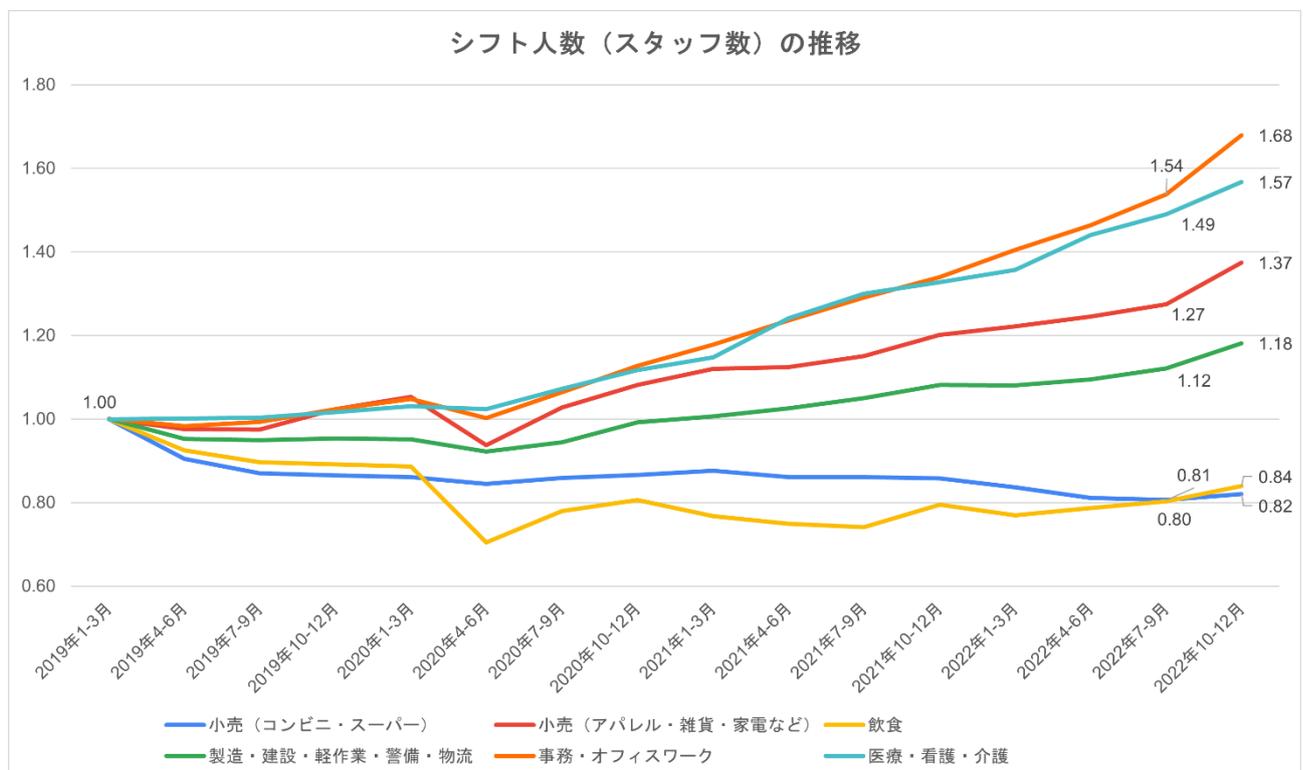
## ■ 2022年10-12月のシフト数（勤務回数）の推移（指数）

業種	2019年1-3月比	2022年7-9月比
小売（コンビニ・スーパー）	0.91	1.02
小売（アパレル・雑貨・家電など）	1.49	1.09
飲食	0.90	1.06
製造・建設・軽作業・警備・物流	1.27	1.07
事務・オフィスワーク	1.77	1.09
医療・看護・介護	1.60	1.06

## ■ データ定義

- 『シフトボード』ユーザーのシフト数（勤務回数）について、業種ごとに集計。2019年1-3月の合計を1.0として指数化し、シフト数がどのように増減しているか四半期ごとの推移を比較した。
- 集計対象件数：約19万件  
注）『シフトボード』の登録ユーザー数の増減バイアスを取り除くため、2019年1月から2022年12月まで登録し続けているユーザーに限定して抜き出し、推移を追っている。
- 対象地域：全国

## 2. シフト人数（スタッフ数）の推移（指数：2019年1-3月の合計を1.0とする）



2023年2月6日

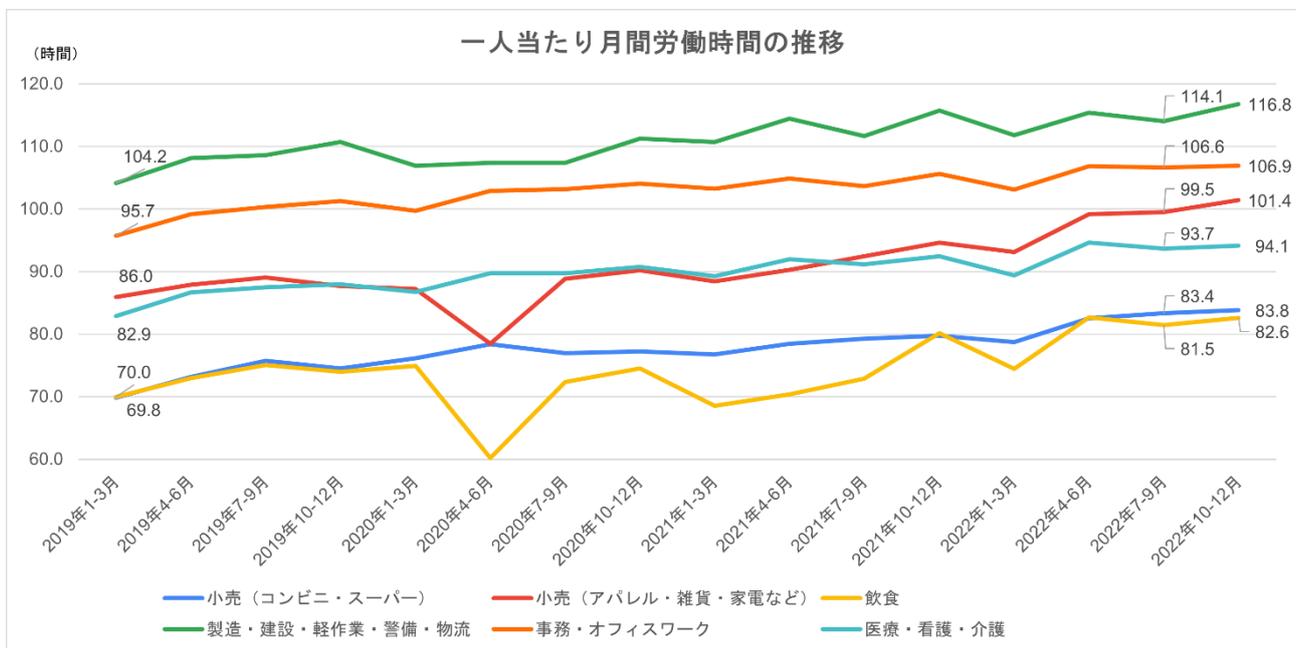
## ■ 2022年10-12月のシフト人数（スタッフ数）の推移（指数）

業種	2019年1-3月比	2022年7-9月比
小売（コンビニ・スーパー）	0.82	1.02
小売（アパレル・雑貨・家電など）	1.37	1.08
飲食	0.84	1.04
製造・建設・軽作業・警備・物流	1.18	1.05
事務・オフィスワーク	1.68	1.09
医療・看護・介護	1.57	1.05

## ■ データ定義

- ▶ 『シフトボード』ユーザーが登録する勤務先のシフト人数（スタッフ数）について、業種ごとに集計。2019年1-3月の合計を1.0として指数化し、シフト人数（スタッフ数）が業種間でどのように変動（移動）しているか四半期ごとの推移を比較した。
- ▶ 集計対象件数：約19万件  
注）『シフトボード』の登録ユーザー数の増減バイアスを取り除くため、2019年1月から2022年12月まで登録し続けているユーザーに限定して抜き出し、推移を追っている。
- ▶ 対象地域：全国

## 3. 一人当たり月間労働時間の推移



2023年2月6日

## ■ 2022年10-12月の一人当たり月間労働時間の推移（単位：時間）

業種	2022年 10-12月	2019年 1-3月比増減		2022年 7-9月比増減	
		時間	増減率	時間	増減率
小売（コンビニ・スーパー）	83.8	+14.0	+20.1%	+0.5	+0.6%
小売（アパレル・雑貨・家電など）	101.4	+15.4	+18.0%	+1.9	+1.9%
飲食	82.6	+12.6	+18.1%	+1.2	+1.4%
製造・建設・軽作業・警備・物流	116.8	+12.6	+12.1%	+2.7	+2.4%
事務・オフィスワーク	106.9	+11.2	+11.7%	+0.3	+0.3%
医療・看護・介護	94.1	+11.3	+13.6%	+0.5	+0.5%

## ■ データ定義

- ▶ 『シフトボード』ユーザー一人当たりの3か月ごとの月間平均労働時間を算出。
- ▶ 集計対象件数：約19万件  
注) 『シフトボード』の登録ユーザー数の増減バイアスを取り除くため、2019年1月から2022年12月まで登録し続けているユーザーに限定して抜き出し、推移を追っている。
- ▶ 対象地域：全国

## 4. データの解説



沓水 佑樹（くつみず ゆうき）※ご取材可能  
株式会社リクルート Labor プロダクトマネジメントユニット長  
『Airシフト』『シフトボード』プロダクト担当者

2022年10-12月のシフト数およびシフト人数は、「小売（アパレル・雑貨・家電など）」「製造・建設・軽作業・警備・物流」「事務・オフィスワーク」「医療・看護・介護」の4業種で新型コロナウイルス感染拡大前の2019年1-3月を上回り、「小売（コンビニ・スーパー）」「飲食」の2業種で下回りました。この傾向は前回（2022年7-9月時点）と変わらず、コロナ禍での行動制限を受けて、特に飲食業のスタッフが他業種に移動していることが当該データから読み取ることができます。

2019年1-3月比で一番伸びているのは「事務・オフィスワーク」のシフト数1.77、シフト人数1.68です。昨今のIT人材需要や年末商戦に向けたコールセンター需要の高まりに加えて、コロナワクチン接種の受付といった案件が同業種の伸びを下支えしているとみています。また、「医療・看護・介護」もシフト数1.60、シフト人数1.57と二番目の伸びで、こちらは医療や介護の現場でのエッセンシャルワーカーの底堅い需要が背景にあると考えています。

直前の2022年7-9月と比較すると、2022年10-12月はシフト数・シフト人数ともに6業種全てで増加しています。他業種にスタッフが移動して人材確保に苦戦している「飲食」ではありますが、シフト人数は、2022年7-9月比で1.04と微増しており、3四半期連続で増加傾向にあります。2021年9月末に緊急事態宣言が解除されて以降、コロナ前の水準には戻り切っていないものの、徐々に人が戻りつつあると言えるでしょう。

一人当たりの月間労働時間については、2022年10-12月は6業種全てにおいてコロナ前の2019年1-3

2023年2月6日

月比および2022年7-9月比で増加しています。2019年1-3月比でそれぞれ10~20%ほど増加するとともに、2022年7-9月比も微増という結果となりました。

人口減少や少子高齢化に伴う構造的な人手不足の影響もあって人材確保が思うように進まない中、行動制限のない年末を迎え、小売では年末商戦、飲食では忘年会、物流ではお歳暮などの繁忙期のため、多くの業種で一人当たりの労働負荷が高まっていることが背景にあると考えられます。

## 5. 年度末はスタッフの入れ替わり時期。企業は採用・定着成功のための工夫を



宇佐川 邦子（うさがわ くにこ）※ご取材可能  
株式会社リクルート ジョブズリサーチセンター長

with コロナの生活様式の浸透に伴う経済活動の再開を受けて、足元では小売や飲食、宿泊、物流など多くの業種でアルバイト・パートの人材需要が高まっており、企業の採用意欲はコロナ前と同水準またはそれ以上となっています。また、構造的な人手不足の影響もあり、採用活動はさらに厳しさを増しています。

『シフトボード』の一人当たり月間労働時間のデータからも、コロナ前に比べて6業種全てで労働時間は増加しており、人手が足りない分、既存スタッフが長い時間働くことで補っている様子が見て取れます。こうした中、3月にはアルバイトを支える学生たちが卒業シーズンを迎えて一斉退職することで、多くの業種でスタッフ数が減少することになります。

人手不足の状況下、企業がスタッフの採用および定着に成功し、円滑なオペレーションを実現するためにはさまざまな工夫が求められます。以下、ポイントをいくつかご紹介します。

### ①採用ターゲットの明確化と心配事の解決

昨今はワークライフバランスを重視する求職者が増えています。採用ターゲットを定めた上で、それぞれの仕事選びの基準や心配事を把握し、それをできる限り解決することが重要です。例えば学生であれば、テスト期間や就活の際に、主婦であれば育児などの突発的な対応が必要となった際に休みを取りやすくなるよう柔軟なシフトを組むことや、スタッフが希望を伝えやすい職場環境づくりが必要になると思います。また、当社の「入職者調査 2020 年年間」からコロナ感染対策を気にする求職者が多いことが分かっているため、感染対策の徹底は、募集時や面接時のアピールポイントになるでしょう。

### ②ユニークネスの訴求

なかなか実現のハードルは高いと思いますが、その店舗・企業で働くことの魅力・ベネフィットの訴求も有効です。当社の「求職者の動向・意識調査 2021」から、金銭報酬以外の働く目的として自己成長を重視する求職者も一定の割合で存在することが明らかになっています。そうした求職者のニーズに応えるため、さまざまなスキルの習得につながる職場環境を実現することは重要な差別化ポイントとなります。例えば、外国人の接客のために英会話研修を導入することでスタッフの接客スキル向上を図っている企業や、社員が学生アルバイトの就活トレーニングを行う企業など、ユニークな取り組みを打ち出すことで魅力を高めている事例も見られます。

### ③オペレーションのDX

人材採用と同時に、例えば小売業や飲食業ではセルフオーダーやキャッシュレス決済を導入するなどオ

2023年2月6日

ペレーションのDXを推進することで、機械ができる仕事は機械に任せ、人だからこそできる付加価値の高い業務に集中するといった取り組みも効果的と考えます。

多くの業種で人材需要が高まっている大変厳しい採用環境ではありますが、上記の取り組みポイントが企業の皆さまのヒントとなり、スタッフの採用・定着に成功されることを願っています。

## ■ Airシフト／シフトボードについて

『Airシフト』は、やりとりも作成もラクになるシフト管理サービスです。シフト表と一体になったチャットを使ってスタッフとやりとりができるので、シフトの作成と管理はもちろん、急な調整や連絡などもこれひとつで完結します。2018年4月にサービスの提供を開始し、飲食、小売り、サービスなどの幅広い業種で活用が進んでいます。

『Airシフト』さえあれば、スタッフの希望はシフト表に自動反映、書き写しの手間やミスがなくなります。急な出勤依頼や変更調整も、シフト表を見ながらチャットで可能、シフト表にも同時に反映されます。導入したお店からは、「今まで3時間以上かかっていたシフト作成が30分程度になった」「辛かったシフト管理が楽しくなった」「スタッフの定着率が向上した」などの声を頂いています。

さらに、スタッフ用シフト管理アプリ『シフトボード』（2022年11月末時点で累計900万ダウンロード以上）と連携することで、スタッフはいつでもどこでもシフトの提出、確認、連絡が可能。店長だけでなく働くスタッフにも嬉しいサービスです。

私たちは、事業を営む皆さまの「思い描く事業運営や自分らしいお店づくり」を、これからも支援し続けます。

本件に関する  
お問い合わせ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

## リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、マッチング&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>